

カテゴリー

調査研究・人材育成、
歴史・文化

活動名称

商品開発に向けたモニターツアー事業

地域ブロック

東北

ルート名称

菅江真澄と巡るあきたの道

①活動概要

秋田県内外に多数存在する「菅江真澄」の足跡を巡る新たな観光ルートの商品化に向けたモニターツアーと参加者からのアンケート調査の実施。

(平成18年度より実施)

- ・H18：横手市美郷町方面（40名）
- ・H19：男鹿市（40名）
- ・H20：青森県下北方面（12名）、男鹿市（14名）

②活動の体制

主体

秋田のみち・文化再発見の会(PS)

③苦労した点や工夫した点

【苦労した点】・地元ガイドの確保

- 【工夫した点】・PS団体の自助努力によるガイドを実施
- ・随所で菅江真澄の図絵と現在の風景を比較
 - ・昼食も真澄が記載したメニューを再現

④活動の効果

- ・参加者のアンケート結果は概ね好評。
- ・商品化に向け、手応えを感じている。

⑤今後の活動

- ・商品として“何が不足”して“何が支障”となっているのか等、アンケート結果を取りまとめ関係機関へ提起する。
- ・地元ガイドの育成、地域の受入体制の構築を図る。
- ・広域観光ルートの商品化へ向け、観光会社との連携を図る取り組みを展開していく予定。

菅江真澄とは

菅江真澄（1754～1829）は、江戸時代後期の紀行家で、現在の愛知県の生まれです。北陸・東北・北海道を巡り歩き、中でも秋田には29年間も滞在していました。残された図絵は3,000枚にもなり、その足跡は秋田県内各地にのこされています。男鹿の「なまはげ」を最初に記した人でもあります。



菅江真澄の図絵
※秋田県立博物館蔵の写本

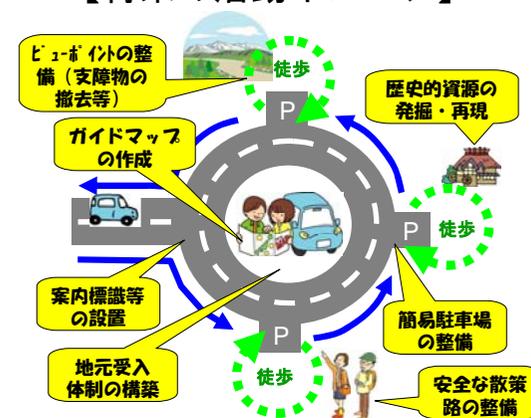


菅江真澄の図絵（約200年前）とほぼ変わらない景色の中での昼食（H19）



菅江真澄も描いた真山神社のカヤの木（男鹿市）
について地元ガイドの説明を聞く参加者（H20）

【将来の活動イメージ】



問合せ先 担当：秋田のみち・文化再発見の会 鏡 啓記
あぶみ けいき
電話：018-832-5680